

【各基本施策のページの見方】

基本構想の「目指すまちのイメージ」に対応した『政策の大綱』を表しています。

1. まちの活力とにぎわいの向上

(1) 都市空間の魅力化と交通拠点性の向上

- (1) 都市空間の魅力化と交通拠点性の向上
- (2) 企業活動の促進と雇用の確保

政策の大綱内で各分野に分類する『基本施策』を表しています。

目指す姿

市内外の人が、魅力的でにぎわいのある都市空間のもと、生活や活動が行われています。

基本施策を推進することで、誰がどのような状態になることを目指していくかを表しています。

◇成果指標

1. 人口の社会増減率（過去5年間の平均）

現状値	目標値
0.29%	現状値以上

2. 一日当たりの亀山インターチェンジ（亀山PAスマートインターチェンジを含む）利用交通量

現状値	目標値
-----	-----

基本施策の推進状況を把握するため、その一側面を見る指標として、2種類の**成果指標（アウトカム指標）**を設定しています。

※特に表示のない場合は、令和6年度末時点の数値等を現状値としています。

※前期基本計画において新たに指標とする場合は現状値を「－」と表示しています。

※設定した指標がSDGsローカル指標（内閣府）に位置付けられている場合は、指標名の末尾に「[SDGs]」と表示しています。

現状と課題

- 本市は、東名阪自動車道、新名神高速道路及び近畿自動車点として発展しています。さらに、高速道路に接続し、新化され、整備が進められているほか、リニア中央新幹線三層高まることが期待されています。こうした状況を踏ま生かし、魅力的で計画的な都市づくりをさらに推進してい
- 新名神高速道路の三重県内区間が全線開通したことにより、名古屋と大阪間の交通が大幅に改善され、物流やモノの交流が活発化しています。しかし、さらなる交通の要衝としての発展には新名神高速道路の機能強化に加え、鈴鹿亀山道路・国道1号関バイパス等の整備促進を通じて、物流の効率化による生産性の向上、災害時の代替道路としての機能強化、円滑な交通確保を図る必要があります。
- リニア中央新幹線は、建設主体であるJR東海において、先行区間（品川・名古屋間）の建設工事が鋭意進められているとともに、名古屋・大阪間においても環境影響評価に着手されています。リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会において県内駅候補地として決定され、リニア誘致活動が新たな段階に入った本市においては、早期全線開業に向け、三重県など関係団体と連携した機運醸成を進める必要があります。
- 本市においては、活力ある市街地の形成に向け、中心的都市市街地における住宅の取得支援や地籍調査の推進等の取り組みを進めてきました。一方で、市北東部を中心に、居住や都市機能の誘導が必要とされる区域外での宅地開発や商業施設の立地等が進行しており、市街地の活性化やまとまりのある居住地の確保には十分につながっていない状況です。このため、都市の拠点機能の強化やまとまりのある居住地形成を促進するための一層の取り組みが求められます。また、JR亀山駅周辺については、当該地区を建設予定地としている新庁舎の整備と連携し、さらなる都市機能の向上による拠点性の強化とにぎわいの創出が求められます。
- 一筆ごとの土地の境界や面積を明らかにする地籍調査は、効率的なまちづくりやインフラ整備等を進める上で重要な役割を果たします。しかし、本市における進捗率は低く、災害からの早期復旧・復興や円滑な土地利用が困難になる恐れがあることから、地籍調査のさらなる推進を図る必要があります。
- （以下略）

前期基本計画の策定に当たり、本市を取り巻く「現状」の分析と、今後を見通した「課題」を整理しています。

基本施策と関連するSDGsのゴールをカラー地・白文字で表示しています。

目指すまちのイメージを表しています。

活力が魅力を高めるまち



施策の方向

1 交通の利便性を生かした都市の形成	基本施策を推進する施策の方向を表しています。 土地利用を促進することで、都市の持続可能な発展を図ります。 ◆本市の都市形成に影響を与える様々な動向に適切に対応し都市の成長につなげるため、用途地域や都市施設について、都市計画の見直しを行います。 ◆…（以下略） 施策の方向を推進するための個別施策を表しています。 ◇一日当たりの亀山IC（亀山PAスマートICを含む）利用交通量（再掲） ◇リニア中央新幹線・JR複線電化推進 亀山市民会議の会員数 関連指標 <table><tr><th>現状値</th><th>目標値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>27,974 台</td><td>▶ 現状値以上</td><td>75 会員</td><td>▶ 95 会員</td></tr></table>	現状値	目標値	現状値	目標値	27,974 台	▶ 現状値以上	75 会員	▶ 95 会員
現状値	目標値	現状値	目標値						
27,974 台	▶ 現状値以上	75 会員	▶ 95 会員						
2 活力のある市街地の形成	◆…（以下略） ◆…（以下略） ◆…（以下略） 施策の方向の推進状況を把握するための指標として、1～2種類の関連指標（アウトカム指標又はアウトプット指標）を設定しています。 表示方法等については、成果指標の注釈（※）と同様です。 ◇市内の新築一戸建て住宅のうち用途地域内への立地率（過去5年間の平均） ◇地籍調査完了面積（累計） 関連指標 <table><tr><th>現状値</th><th>目標値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>44.1 %</td><td>▶ 45.0 %</td><td>20ha</td><td>▶ 52ha</td></tr></table>	現状値	目標値	現状値	目標値	44.1 %	▶ 45.0 %	20ha	▶ 52ha
現状値	目標値	現状値	目標値						
44.1 %	▶ 45.0 %	20ha	▶ 52ha						
3 安らぎのある都市空間の創出	◆豊かな自然、歴史・文化が息づく本市の特色ある地域の魅力や個性ある景観を生かすとともに、歴史的建造物等の保全を図ることにより、美しく魅力ある景観まちづくりを推進します。 ◆…（以下略） ◇景観重要建造物の指定数（累計） ◇公園施設更新数 関連指標 <table><tr><th>現状値</th><th>目標値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>6 件</td><td>▶ 16 件</td><td>－</td><td>▶ 5 か所</td></tr></table>	現状値	目標値	現状値	目標値	6 件	▶ 16 件	－	▶ 5 か所
現状値	目標値	現状値	目標値						
6 件	▶ 16 件	－	▶ 5 か所						

都市計画区域内の土地利用状況

基本施策に関連する代表的な数値等を図表にしています。

			宅地				農地			
			住居系	商業系	工業系	小計	農地	農地	農地	農地
都市計画区域	面積(ha)	平成30年度	624.03	83.50	433.08	1,140.61	1,455.91	3,850.48	5,306.39	6,447.00
		令和6年度	633.76	85.04	469.74	1,188.54	1,272.71	3,985.75	5,258.46	6,447.00
		増減率(%)	1.56	1.84	8.46	4.20	△ 12.58	3.51	△ 0.90	0.00
用途指定地域	面積(ha)	平成30年度	277.01	41.90	283.06	601.97	89.91	457.52	547.43	1,149.40
		令和6年度	279.06	41.53	295.99	616.58	66.60	466.22	532.82	1,149.40
		増減率(%)	0.74	△ 0.88	4.57	2.43	△ 25.93	1.90	△ 2.67	0.00
用途指定地域外	面積(ha)	平成30年度	347.02	41.60	150.02	538.64	1,366.00	3,392.96	4,758.96	5,297.60
		令和6年度	354.70	43.51	173.75	571.96	1,206.11	3,519.53	4,725.64	5,297.60
		増減率(%)	2.21	4.59	15.82	6.19	△ 11.70	3.73	△ 0.70	0.00

（資料：都市整備課）